

Lagoa

について



ラゴア

ラゴア（Lagoa）の起源は不明ですが、ラグーンの周囲に最初の集落が発展し、それが名前の由来になったことが知られています。この町では今も、16世紀の発展を物語るマヌエル様式の建築物の興味深い例をいくつか見ることができます。しかし基本的には、この町の歴史が最も明確に文書化されるようになったのは、ラゴアが町の地位に昇格し、地方自治体が組織された18世紀以降です。町は1755年の地震で徹底的に破壊され、この時期に多くの記念物やその他の建造物が建て替えられたことが見れば明らかです。

19世紀末にはフィッシングとそれに伴うカヌーの産業が町に大きな反映をもたらしました。しかし現在、最も重要な役割を担っているのは観光業で、それにより経済活動はかつてないほど多様化し、ラゴアとその周辺地域は現代のアルガルヴェ（Algarve）地方の象徴となりました。

町はもともと16世紀に建てられ、18世紀に全面的に再建された教区教会（Igreja Matriz）を中心に発展しました。典型的な白壁の家が並ぶ周囲の通りは今も昔の雰囲気を醸し出し、アルガルヴェ地方の特徴となっている、白壁に複雑な網目模様の彫刻を施した装飾的な煙突をあちこちで目にすることができます。こうした狭い通りを歩くと、旅行者は町のさまざまな景観を楽しむことができ、聖週間に開かれる古代の儀式、「キリストの受難」の祭壇を鑑賞したり、16世紀の町であることを示すマヌエル様式の玄関や窓を見つける機会が得られます。

高い評価を得ている白ワインの産地として、ラゴアの名前は世界的に広く知られています。ここはポルトガルの産地管理呼称地域の1つです。